

平成26年度
第2回 石狩川上流 河道管理ワーキング

- 日時：平成27年1月23日（金）14：00～17：00
- 場所：平成26年度施工現場、旭川開発建設部入札執行室
- 出席者：

所属等	氏名
北海道大学大学院工学研究院 教授	泉 典洋
NPO 法人環境防災研究機構北海道 専務理事	黒木 幹男
北海道大学大学院工学研究院 教授	清水 康行
流域生態研究所 所長	妹尾 優二
国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 室長	服部 敦
寒地土木研究所 寒地河川チーム 上席研究員	船木 淳悟
北見工業大学社会環境工学科 教授	渡邊 康玄

※五十音順、敬称略

●議題：

1. 平成26年度施工現場視察
2. 段階施工に関する大型模型実験の結果と考察について
3. 産卵床の復元について
4. 平成26年度の施工内容について
5. モニタリング計画（案）について
6. 今後のスケジュールについて

【議事要旨】

＜主な意見・意見交換＞

項目	意見内容
段階施工に関する大型模型実験の結果と考察について	<p>河床低下対策は川幅を広げて水深を浅くして流れを分散させる対策だと思うが、巨礫配置案は水の流れを集中させてしまう可能性があるのではないか。 →河岸際への巨礫配置は河岸際付近の滞筋化を抑制する意味がある。</p> <p>巨礫配置した箇所に微細砂等が堆積し樹林化の原因をつくってしまう可能性がある。巨礫のない所を水が強制的に流される。次回は中小出水時の流速と流向を見たい。流向が土砂のコントロールに対し大きな役割を果たすものと考ええる。</p> <p>露岩する所に流れが集中するのを巨礫の配置により分散させられるとも考えられる。実験での巨礫の粗度が実際の巨礫の粗度より効果が大きくなっているように見える。</p> <p>岩盤を敢えて掘削する必要は無いと考える。岩盤掘削案については砂礫のコントロールが困難になると想定できる。</p> <p>工事は6,7年と時間が掛かるので対策は最小限にして、モニタリングの結果、問題があれば対応策を検討していけば良い。実験も軟らかいモルタルに置き換えて掘れるかどうか確認してみてもどうか。</p> <p>河岸際の露岩がどのような影響を及ぼすかについて評価するべきではないか。</p> <p>湾曲部外岸の露岩部には砂礫は流れて来ないかもしれない。寒地土木研究所の最近の実験でもそのような結果が出ている。</p> <p>巨礫がどの程度の洪水まで耐えられるのかについては把握しておくべき。</p> <p>段階施工上流端に横断的に巨礫を配置する案の効果は期待できると考える。</p>

項目	意見内容
産卵床の復元、モニタリング計画(案)について	<p>河畔林機能調査は水辺の国勢調査や航空写真の経年変化等も参考とするとともに、新しい環境がどう遷移して行くかをみると良いのではないかと。</p> <p>産卵床の評価を行うにあたっては将来を予測した結果を見るべきだと思う。</p> <p>→実験結果として示しているものは30年後の様子であり、将来的にみても産卵に適した状況が形成できると判断している。</p>

● 施工現場視察の様子



● ワーキングの様子



【お問い合わせ先】
 石狩川上流 河道管理ワーキング事務局
 北海道開発局 旭川開発建設部 治水課
 〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3番15号
 TEL 0166-32-4245、FAX 0166-32-2927

以上